Idiopathic normal pressure hydrocephalus concomitant with progressive supranuclear palsy

メタデータ	言語: English
	出版者:
	公開日: 2025-06-20
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 島田, 知世
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003850

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2913 号

Idiopathic normal pressure hydrocephalus concomitant with progressive supranuclear palsy

正常圧水頭症と進行性格上性麻痺の合併

島田 知世（しまだ ともよ）

博士（医学）

論文審査結果の要旨
本論文は、特発性正常圧水頭症（idiopathic normal pressure hydrocephalus; iNPH）と進行性核上性麻痺（progressive supranuclear palsy; PSP）の合併症例において、臨床的・画像的特徴、及びシャント手術の有効性を後方視的に検討した論文である。
【新規性、創造性】本論文は、これまで症例報告にとどまっていた iNPH と PSP の合併症例を後方視的に検討し、計 85 名の iNPH 患者のうち 18 名（21.2%）で PSP が合併していることを示した。さらに、PSP 合併例において、シャント手術の短期的有効性（Modified Rankin scale, p = 0.038; iNPH Grading scale 合計点, p = 0.003）を示した点で新規性を有する。
【方法・研究倫理】本研究は、単施設後方視的研究である。順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会の承認（神経変性疾患に関する臨床経過および検査，治療の有用性に関する後方視的検討）のもと、ヘルシンキ宣言（2013 年 10 月　WMA フォルタレザ総会[ブラジル]で修正版）及び人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（2014 年 12 月 22 日）に従って実施した。
【学術的意義】本論文は、iNPH と PSP の合併が稀ではないことを示し（21.2%）、PSP 合併例の臨床的・画像的特徴を明確にした。さらに、神経学的予後が不良であることが多い PSP において、短期的であってもシャント手術により予後が改善することを示した点に意義がある。
【考察・今後の発展】PSP の神経学的予後を考慮すると、シャント手術前に合併の有無を検討することは非常に重要である。今後は前方視的に症例を蓄積し、合併例の臨床的・画像的特徴をさらに検討するとともに、シャント手術が短期的予後のみならず長期的予後に与える影響も検討する必要がある。 よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。